

第51回 鍼灸マッサージ夏期大学医学講座

平成24年7月28日(土)

## 長野県の保健医療の現状について

長野県健康福祉部医療推進課企画幹

小林 秀視 先生

### 1 人口構造

本県の人口は2,152,449人で、平成13年の約222万人をピークに減少傾向。

国勢調査では初めて老年人口が25%を超過した。

今後の人口推計では、人口減少が続き、少子高齢化が一層進展。

### 2 人口動態と平均寿命

#### (1) 出生

本県の出生率は8.1で、全国値を下回っている状況。

合計特殊出生率（1人の女性が一生の間に生むであろう子どもの数に相当）は、漸減傾向を示してきたが、平成22年には1.47となり、平成21年の1.43を上回った。

#### (2) 死亡

##### ① 死亡率

平成22年の死亡者数は23,133人、死亡率（人口千対、概数）は10.9で、全国平均の9.5を上回った。

死亡率は、昭和50年代後半まで低下傾向で推移したが、その後は上昇傾向。

平成17年の年齢調整死亡率\*（人口10万対）では、男性では低位順で全国1位、女性も低位順で全国2位。

---

\* **年齢調整死亡率**：死亡数を人口で除した死亡率については、各地域の年齢構成に差があるため、高齢者の多い地域で高くなり、若年者の多い地域で低くなる傾向にある。このため、年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように基準人口（昭和60年モデル人口）で補正した死亡率。

## ② 乳児死亡率及び新生児死亡率

平成22年の乳児死亡（生後1年未満の死亡）数は25人、乳児死亡率（出生千対）は1.5となっている。

乳児死亡率は、昭和20年以降昭和30年代にかけ急激に低下し平成5年以降は全国平均を下回って推移。

## ③ 周産期死亡率

平成22年の周産期死亡（生後1週未満の死亡及び妊娠満22週以後の死産）数は62人、周産期死亡率（出産千対）は3.6となっている。周産期死亡率は、母子保健の普及改善等により低下傾向。

## ④ 死亡原因

昭和22年の死因順位は、脳血管疾患、肺炎及び気管支炎、全結核。

平成22年では、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患が上位を占めている。

この平成22年の全死因に占める3大死因の割合は55.1%。

3大死因について、平成17年の年齢調整死亡率（人口10万対）で見ると、特に悪性新生物においては、男性が低位順で全国1位、女性も全国2位。

また心疾患は、男女とも全国平均を下回り、女性の心疾患は低位順で全国1位。しかし、脳血管疾患については、男女とも全国平均を上回っている。

## （3）平均寿命

平成17年の都道府県別生命表によると、本県の平均寿命は、男性が79.84年で全国1位、女性が86.48年で全国5位。

### 3 傷病の動向

#### (1) 患者数及び受療率

厚生労働省「患者調査」によると、県民の16.2人に1人が受療。

施設の種別では、病院が52,700人、一般診療所が58,900人、歯科診療所が21,600人。入院・外来別では、入院が21,000人、外来が112,200人。

性別患者数では、男性が58,400人、女性が74,800人。

#### (2) 傷病別患者数・受療率

厚生労働省「患者調査」によると、傷病別推計患者数は、「消化器系の疾患」が21,500人と最も多く、次いで「循環器系の疾患」17,800人、「筋骨格系及び結合組織の疾患」17,400人の順。

#### (3) 年齢階級別受療率

年齢階級別受療率（人口10万対）をみると、15～24歳の2,281を最低に、最高は75歳以上の12,801となっている。

### 4 保健医療施設の状況

#### (1) 病院・診療所・歯科診療所・薬局

##### ① 病院

病院数（人口10万対）は、全国平均を下回って推移。

病院の病床数（人口10万対）は、全国平均を下回って推移しているが、全国平均が平成3年以降減少傾向なのに対し、本県の病床数は平成15年から平成19年まで増加した後、平成20年以降は減少傾向。

病院の病床利用率は全国平均をやや下回って推移。

病院の平均在院日数は、全国平均を大きく下回って推移。

##### ② 一般診療所

一般診療所数（人口10万対）は全国平均を下回っており、増加傾向で推移してきたが、平成22年（概数）は72.3となり、平成21年の72.8を下回った。

③ 歯科診療所

歯科診療所数（人口10万対）は全国平均を下回っており、増加傾向にあるものの、伸びは鈍化。

④ 薬局

薬局数（人口10万対）は全国平均を下回っており、増加傾向にあるものの、伸びは鈍化。

## 5 保健医療従事者の状況

### （1）保健医療従事者数の推移

① 医師

医療施設従事医師数（人口10万対）について、平成20年12月31日現在の医師数（人口10万対）は196.4と全国平均を下回っている。

② 歯科医師

医療施設従事歯科医師数（人口10万対）について、平成20年12月31日現在の歯科医師数（人口10万対）は72.5と全国平均を下回っている。

③ 薬剤師

薬局・医療施設従事薬剤師数（人口10万対）について、平成20年12月31日現在の薬剤師数（人口10万対）は144.3と全国平均とほぼ同水準となっている。

④ 保健師、助産師、看護師、准看護師

人口10万対の保健師、助産師、看護師、准看護師数について、平成22年12月31日現在の人口10万対（概数）では、保健師、助産師、看護師では全国平均より高く、准看護師で下回っている。なお、保健師は全国平均の約1.8倍で全国3位。

### （2）保健医療圏別の保健医療従事者の状況

人口10万人当たりの保健従事者数は、医師・歯科医師・薬剤師については、松本医療圏が他の地区に比べて多く、地域偏在がみられる。